



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

8月までの資金動向 存在感を放つ日銀のETF買い

2020年8月の国内の投資信託市場の資金動向は、リップパーの推計で、上場投資信託(ETF)以外の国内公募株式オープン投信で1084億円の純流入。2カ月連続の流入超過でした。ETFを含めた集計では、4759億円の純流入。8カ月連続の流入超過です。今年、ETFは特に多くの資金を集めています。1~8月の累計は、統計がある2003年以降で最も多い5.91兆円でした=グラフ。

ETFへの資金流入が増え

たのは、新型コロナウイルスの感染拡大で経済や金融市場が混乱しないように、3月に日銀がETFの購入枠を年間12兆円へと、それまでの2倍に増やして備えたため。

特に3月と4月は巨額で、日銀だけでそれぞれ1.5兆円、1.2兆円分のETFを購入。日銀が金融緩和政策の一つとしてETFの購入を始めた2010年当時は、年間購入予定額が4500億円でしたから、現在の買い入れ規模のいかに巨大なことか。



個別の投信では、8月は2020年に誕生した投信に資金が集まりました。月間純流入額の上位4銘柄が、今年の新規設定です。そのうち3銘柄が、ESG=環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)に貢献する企業の株式で運用する投信。持続可能な社会への関心の高まりを感じます。

1~8月の累計でも、7月新設の「グローバルESGハ

イクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)」が、8月も資金を集めて圧倒的首位に=表。2位銘柄の3倍の純流入額でした。

純流出額2位~4位は、バイオ、自動車、ロボットという、テーマ株で運用する投信です。首位の「ひふみプラス」も含め、純流出上位は過去1年間の値上がり大きい銘柄。利益確定売りと考えられます。

■資金純流出入額ランキング (2020年1~8月)

順位	ファンド名 (☆は20年新設、★は償還済み)	資金純流入額(百万円)
〈純流入額トップ5〉		
1	☆グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne)	492,922
2	ピクテグローバルインカム株式(毎月分配)	166,309
3	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	165,970
4	☆デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド(日興)	158,985
5	アライアンス・パーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	155,970
〈純流出額トップ5〉		
1	ひふみプラス(レオス)	-110,286
2	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)(日興)	-76,201
3	モビリティ・イノベーション・ファンド(BNYメロン)	-71,133
4	ロボット・テクノロジー関連株ファンド-ロボテック-(大和)	-64,891
5	★アムンディ・ダブルウォッチ	-63,865

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について、設定額から解約・償還額を差し引いた。リップパー推計